

学力・学習状況調査の結果に基づいた 学習指導の改善に向けて～その巻～

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果に基づいた、学習指導の改善に向けたポイントを紹介합니다。今号では、課題が見られた算数科の「変化と関係」、数学科の「関数」の領域における設問を取り上げます。

全国学力・学習状況調査結果より

※ 全国の正答率は、『報告書』[速報版]をもとにしたもの。

小学校算数	2	二つの数量の関係について考察すること		中学校数学
	設問	設問の概要		
	2 (2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く。	60.8	64.6

(2) オレンジの果汁が40%ふくまれている飲み物があります。この飲み物1000mLには、果汁が何mL入っていますか。答えを書きましょう。

設問	変化の割合		
	設問の概要	県	全国
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	35.9	37.9

4 下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

岡山県では、割合や関数が経年的な課題です。子どもたちは、どこでつまづいているのだろう。学年をさかのぼって、県調査の結果を見てみよう！

岡山県学力・学習状況調査結果より

小学校3年算数 7(1)

著作権の関係上
削除しています

割合や関数の基礎となるのは、小学校2年生のかけ算や小学校3年生のわり算です。その学習の中で、「倍」の意味を併せて指導します。

県調査の3年生の結果を見ると、2年生で学習した「倍」の設問に正しく解答した児童が約半数でした。④の8mと解答した児童が、4分の1もいますね。

8mと解答した児童は、きっと3と5を足したんだね。「倍」の意味が十分理解できていなかったんだなあ。

「倍」については、2年生で学習するだけでなく、1より小さい小数倍や分数倍など、学年を越えて学習します。それぞれの学年で、「倍」の意味をしっかりと身に付けさせたいですね。

授業改善のポイント

学年・校種を越えた系統的な指導を！

2年生でかけ算を指導した時は、九九を覚えさせることに時間をかけて、かけ算や倍の意味を十分理解させていなかったかもしれないなあ。

クラスの子ども達に、これまでどんな学習をしてきたのか、既習事項を振り返らせてから指導する必要がありますね。

倍や割合など、数量の関係を児童に捉えさせるために、やっぱり児童自身に図をかかせたいですね。

先生方は、どんな図を使って説明していますか？学校で統一できていると児童が混乱しないですね。

系統性を意識した指導が行えているか、学力・学習状況調査の結果を基に、校内研修や教科会、学年団等で話し合い、日々の授業を振り返っていきましょう。